

令和元年度エゾシカ捕獲対策業務 実施結果概要

1. 個体数調整（右岸堤防地区）

(1) 個体数調整の実施位置

令和元年度は、右岸堤防地区で大型囲いワナ 2 基を用いて捕獲を実施した。

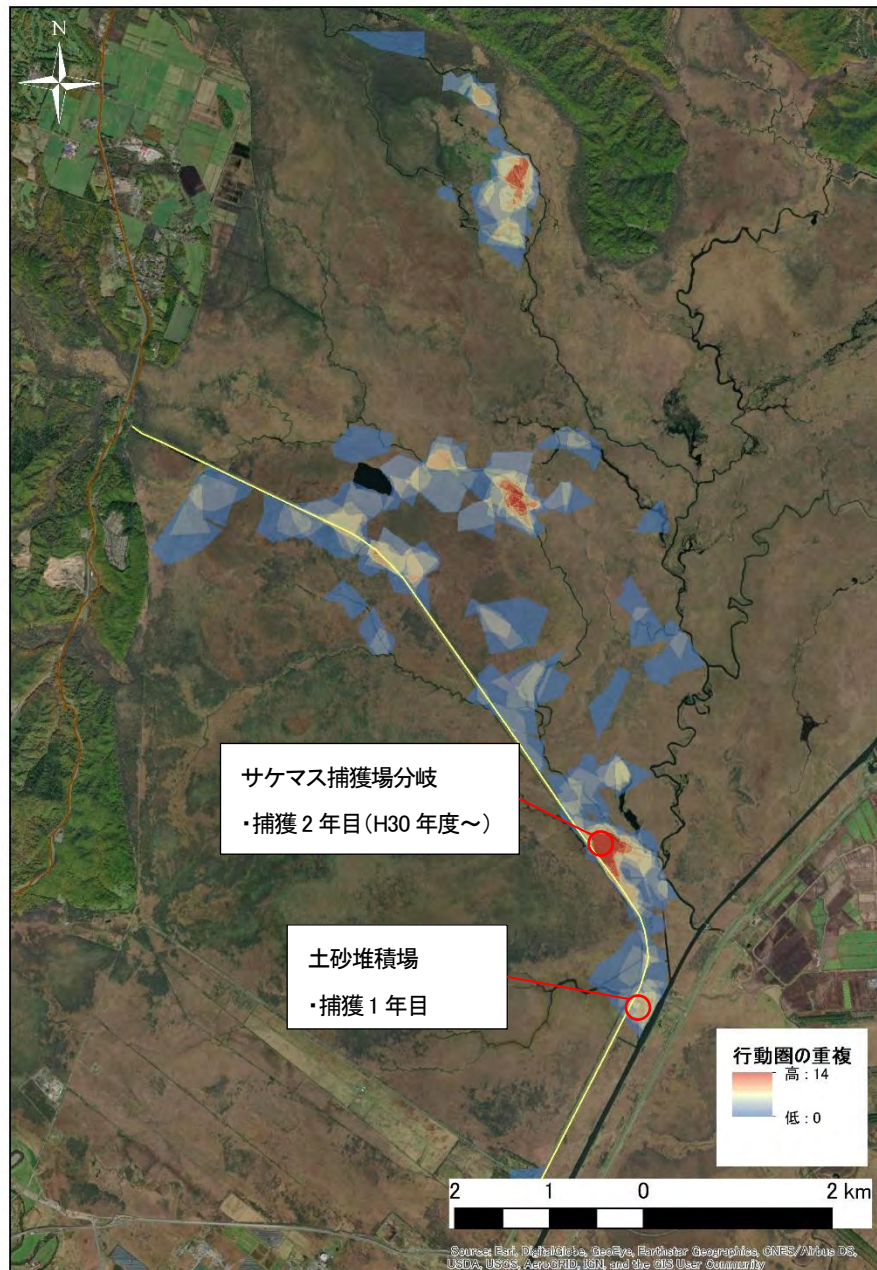


図1. 大型囲いワナ設置位置とエゾシカ行動圏の重複（*）

*環境研究総合推進費事業「釧路湿原にて超高密度状態となったエゾシカの管理を成功させる戦略と戦術（2014～2016年）」の一環でエゾシカに装着したGPS首輪の1～3月の解析データ

(2) 結果

令和元年度は、捕獲2年目のサケマス捕獲場分岐で計35頭（平成30年度は62頭）、捕獲1年目の土砂堆積場で計29頭、合計64頭のエゾシカを捕獲した。

表1. 捕獲スケジュールと捕獲結果

日付	サケマス捕獲場分岐				土砂堆積場				
	小計	内訳			小計	内訳			
		オス	メス	仔		オス	メス	仔	
2019年11月22日	給餌開始								
2019年12月4-7日	ワナ設置								
2019年12月25日	17	3	10	4					
2020年1月14日	8	3	4	1					
2020年1月16-17日					ワナ設置				
2020年1月29日	6	2	3	1					
2020年2月10日					6	5	0	1	
2020年2月12日(朝)					9	0	8	1	
2020年2月12日(夕)					7	1	6	0	
2020年2月23日					3	0	2	1	
2020年3月2日	4	0	2	2					
2020年3月3日					4	0	4	0	
2020年3月16-20日	ワナ撤去								
合計	64	35	8	19	8	29	6	20	3

(3) 課題

令和2年3月11日に降雨、融雪による洪水が発生し、右岸堤防周辺が冠水し、ワナ①、ワナ②ともに冠水した。釧路では数年に一度3月に洪水が発生しており、ワナ設置時期について考慮が必要である（写真1-1、1-2）。



写真1-1 洪水後の右岸堤防周辺（令和2年3月11日）

写真1-2 洪水により破損した大型囲いワナ

（安全を確認後に撤去を実施した）

2. 個体数調整の効果検証等

2-1. ロードセンサス

(1) ロードセンサスの実施位置

捕獲の効果検証及びエゾシカの生息状況把握のため、右岸堤防地区とコッタロ地区でロードセンサスを実施した。



図2-1. ロードセンサスのカウント範囲

(2) 結果

平成 29 年度から令和元年度までの結果を図 2-2、図 2-3 に示す。

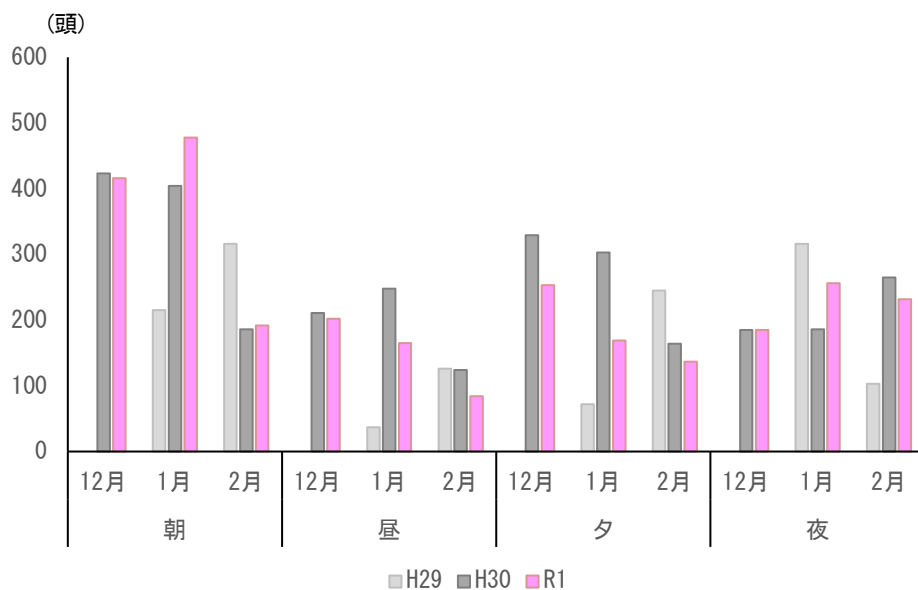


図 2-2. 右岸堤防地区

- 1月の朝のロードセンサスで、過去3年間で最大の478頭が観察され、赤沼周辺で特に多かった。
- 2月にはロードセンサスでの観察数が減少した。

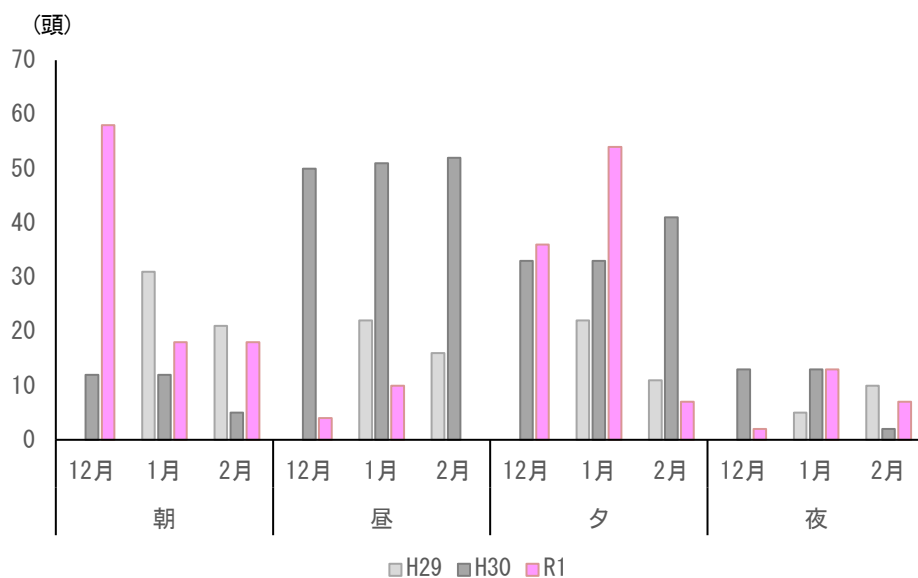


図 2-3. コッタロ地区

- 平成 30 年度と比べ、ほとんどの時間帯、月で観察数が少なかった。

2-2. 定点センサス

(1) 定点センサスの実施位置

大型囲いわなの捕獲対象となるエゾシカの個体数を把握するため、定点センサスを実施した。

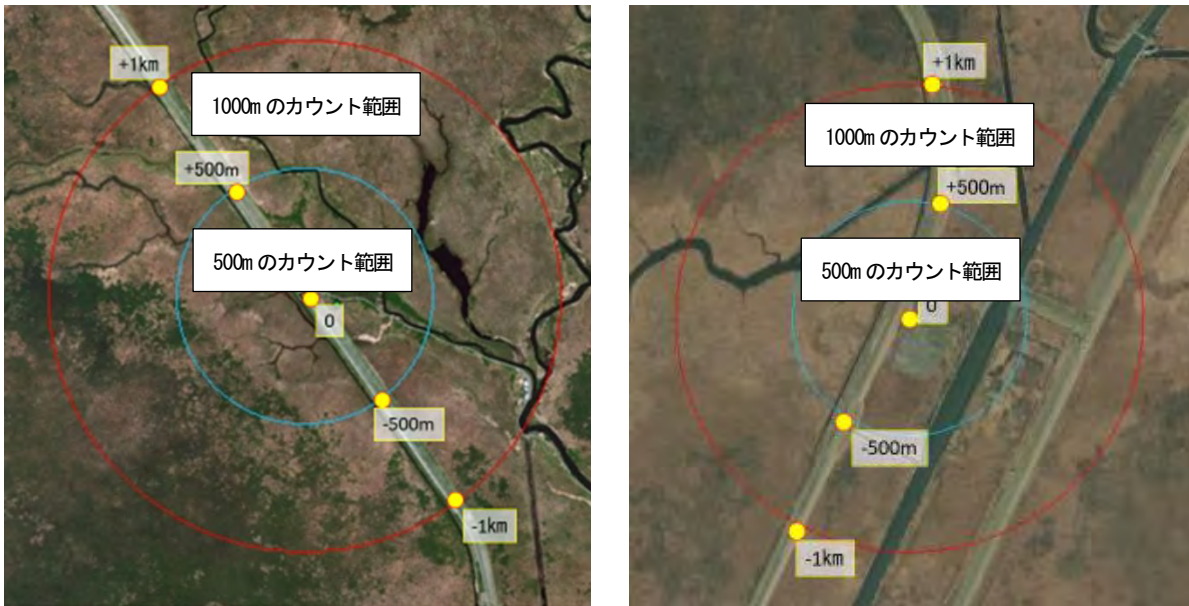


図 2-4. 定点センサスのカウント範囲（左：サケマス捕獲場分岐、右：土砂堆積場）

(2) 結果

サケマス捕獲場分岐、土砂堆積場における定点センサスの結果を図 2-5、図 2-6 に示す。

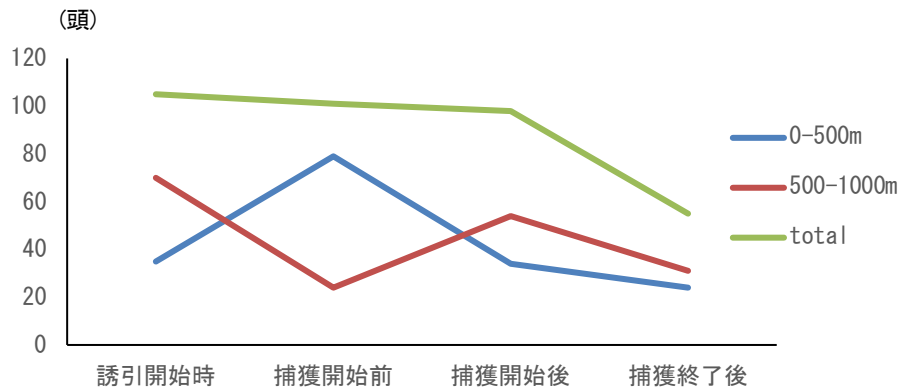


図 2-5. サケマス捕獲場分岐

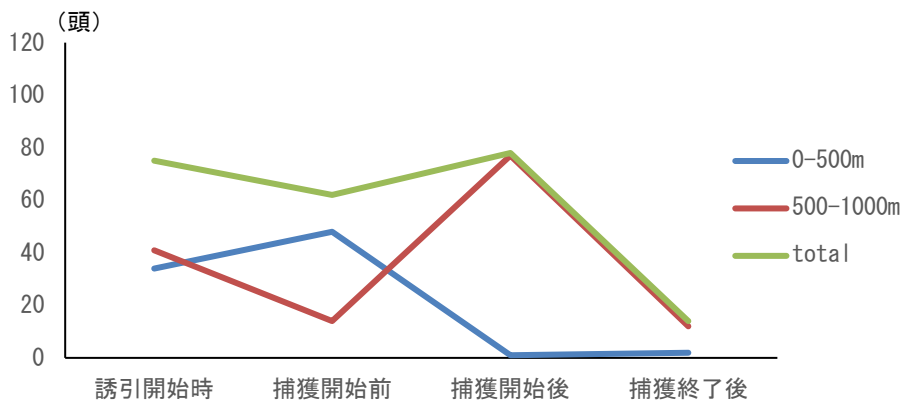


図 2-6. 土砂堆積場

- ・ 定点センサスで捕獲対象のエゾシカ個体数を概ね把握できていると考えられる。
- ・ どちらの捕獲地点も捕獲終了後の観察数は減少していたが、捕獲効果なのか季節変化なのかは特定できない。
- ・ どちらの捕獲地点も、捕獲開始前に 0-500m の割合が大きくなったことから、誘引効果によりエゾシカがワナ周辺に移動した可能性が示された。
- ・ 捕獲開始後は、0-500m のエゾシカは減少していたが、501m-1km のエゾシカは増加していたことから、周辺からの移入の可能性が示唆された。

2-3. 自動撮影カメラ調査

達古武地区で4台の自動撮影カメラを設置し、撮影頻度を指標とする方法を用いてエゾシカの生息状況を把握した。各地点の撮影頻度指数 RAI: Relative Abundance Index ($RAI = \text{総撮影頭数} / \text{カメラ稼働日数}^*$) を図 2-7、2-8 に示す。

*月によりカメラ設置期間が異なるため、各月の 10 日~19 日の 10 日間分のデータで計算した。

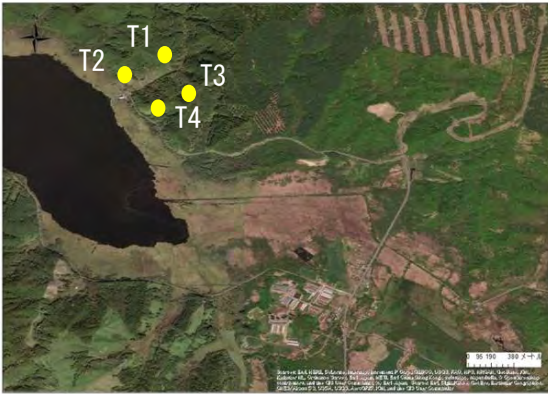


図 2-7. 自動撮影カメラ設置位置

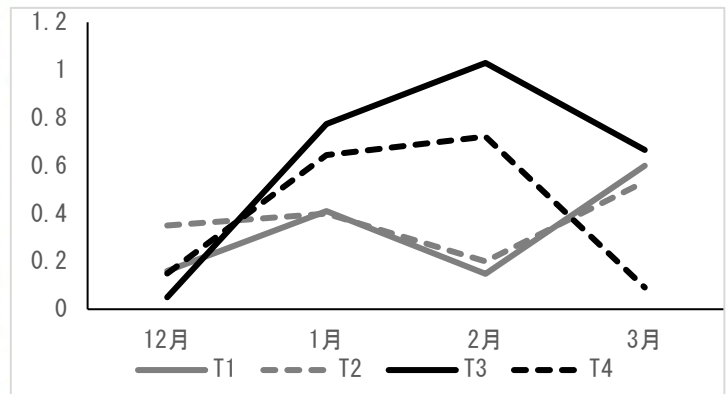


図 2-8. 各地点の RAI

- ・ 給餌を行わない方法でも、当地を利用する個体群の大まかな動態のモニタリングは可能であると考えられる。
- ・ 1、2月の撮影頻度が高く、越冬地である可能性が示唆された。
- ・ 11月以前を見ていないため、夏に植生被害を起こしている個体群の把握は課題。

3. コッタロ地区における個体数調整に向けた検討

下記の課題を踏まえ、エゾシカ搬出業者と現地で協議を行い、捕獲可能な方法を検討したが、現在のエゾシカの生息状況に対して捕獲コスト大きく、あまり効率的ではない。

<課題>

- ・群れサイズが大きく、大型囲いワナによる捕獲が適している。
- ・資材搬入や生体搬出が可能な場所が限られている。
- ・利用者が多く、目立たない捕獲場所が少ない。

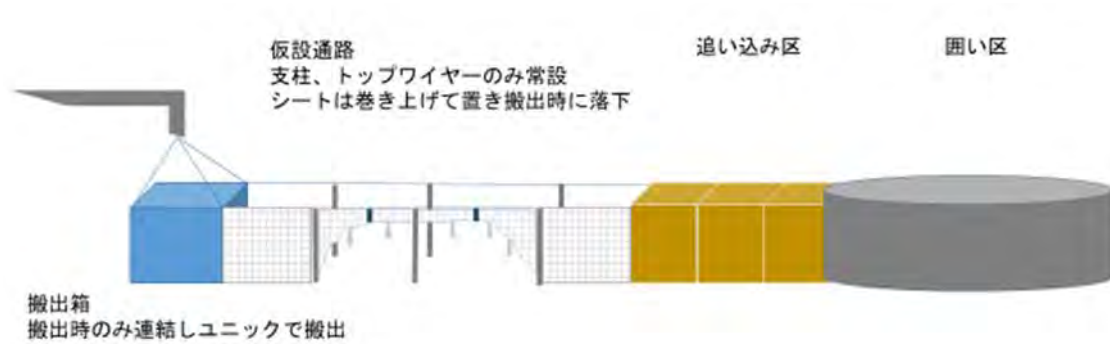


図3. 捕獲可能な方法